

万博に向けた資源循環に 共にチャレンジ！ ごみゼロ共創ネットワーク 取組紹介

ごみゼロ共創ネットワーク

原田 禎夫(同志社大学経済学部 准教授)

浅利 美鈴(京都大学大学院地球環境学堂 准教授)

宇高道義(株式会社NTTデータSBC)

田中哲也(関西広域連合)

「ごみゼロ共創ネットワーク」とは？

- 2022年度に、「TEAM EXPO 2025 共創パートナー」として、開始
- 窓口は、京都超SDGsコンソーシアム(京都市・京都大学・民間企業約20社からなる)
- 2025年大阪・関西万博開催に向けたレガシーづくりの一環として、ごみゼロに向け、多様なプレイヤーを巻き込んだ共創のためのプラットフォームを構築します。具体的には、全国のクリーンアップ活動の優良事例の共有や効果・取組の可視化、学術・技術分野との連携によるブレークスルー、上流対策を含む提言等を目指します。個々で保有するには「もったいない」熱意やノウハウを、ネットワーク化することで、2040年大阪ブルーオーシャンビジョン達成に向けた大きなムーブメントにつなげます。

「ごみゼロ共創ネットワーク」のポイント

① 実はEXPO2025は「持続可能性」に熱い。万博までと、万博の先へ！

② 目の前の「ごみ」だけでなく、目線を広げて

2025年大阪・関西万博開催に向けたレガシーづくりの一環として、ごみゼロに向け、多様なプレイヤーを巻き込んだ共創のためのプラットフォームを構築します。具体的には、全国のクリーンアップ活動の優良事例の共有や効果・取組の可視化、学術・技術分野との連携によるブレークスルー、上流対策を含む提言等を目指します。個々で保有するには「もったいない」熱意やノウハウを、ネットワーク化することで、2040年大阪ブルーオーシャンビジョン達成に向けた大きなムーブメントにつなげます。

※ここは後で

③ 大阪ブルーオーシャンビジョンは、世界の約束事。

当初は、2050年までとしていた期限が、2040年に早まり、待ったなし！

【参考】万博における持続可能性の議論

2025年日本国際博覧会協会「持続可能性有識者委員会」

- 2022年4月「持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針」を策定
 - その中でも重要視している脱炭素・資源循環に関して「改定版EXPO2025グリーンビジョン」を公開
- ①万博におけるカーボンニュートラル(CN)の実現及び2050年のCN社会の提示
 - ②サーキュラーエコノミーの実現(需要サイドの技術等導入によるごみゼロ、食品廃棄ゼロ、ファッションロスゼロの実現)
 - ③来場者等の理解促進を図り、行動変容を起す仕組みの導入
 - ④会場内だけでなく会場外も含めた実証・実装プロジェクトの実施
 - ⑤グリーン成長戦略/重点産業分野における需給両面の取り組み推進
 - ⑥スタートアップ等様々な主体の参加促進

【参考】大阪ブルー・オーシャン・ビジョン

日本発・世界の約束ごと「海洋プラスチックごみの追加的な汚染をゼロに！」

- 2019年6月に開催されたG20大阪サミットにおいて、日本は2050年までに**海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロ**にまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を提案し、首脳間で共有され、全世界へ広がっている。
- 2023年5月に開催されたG7広島サミットに先立って、札幌市で開かれたG7気候・エネルギー・環境相会合で、**「2040年までにゼロ」**という目標とすることに合意し、加速が求められる。



【参考】多様なプレイヤーによる共創を目指して

- 産学公民、多様な世代、全国(→世界へ)
- 特に、研究者も積極的に関与・伴走することで、ニーズに応じた研究展開や、研究結果のスムーズな社会実装を目指す
- メンバーの例:



音楽家・数学研究者・
STEAM教育者
中島さち子氏



日本プラスチック工業連盟
加藤英仁氏



同志社大学
原田禎夫氏



京都大学
浅利美鈴氏



【参考】特に若い世代にも期待！

2022年11月5日(土)10:00-14:00@京都大学超SDGsシンポジウム
キックオフとして、約30の全国の若者等からの事例紹介と提言



一般社団法人maiPLA



浜中町立散布小中学校



京都女子大学青木研究室



トラッシュロワイヤル



大阪府立堺工科高等学校 定時制



只見中学校

「ごみゼロ共創ネットワーク」のポイント(続)

私たちの課題感

- 全国で多くの清掃活動が行われているが、必ずしも、優良事例や課題が共有されていない(もったいない)
- 取組効果がわかりにくい
- 効果的な取組が難しい
- この分野の研究は熱い
- DXを、もっと賢く使えないか
- 大阪ブルーオーシャンビジョン達成には、そもそものプラのリデュース、リユース、リニューアブルも不可欠

2025年大阪・関西万博開催に向けたレガシーづくりの一環として、**ごみゼロ**に向け、**多様なプレイヤー**を巻き込んだ**共創**のためのプラットフォームを構築します。具体的には、

- 全国のクリーンアップ活動の優良事例の共有
- 効果や取組の可視化
- 学術・技術分野との連携によるブレークスルー
- 上流対策を含む提言等を目指します。個々で保有するには「もったいない」熱意やノウハウを、ネットワーク化することで、**2040年大阪ブルーオーシャンビジョン達成**に向けた大きなムーブメントにつなげます。

当面の取り組み(予定)

1. 清掃活動

1-1) 活動団体の抽出&ネットワーク化(登録システム)

- ・2023年5月より、登録呼びかけ中
- ・自治体等を通じた団体等への案内の可能性を相談
- ・主要団体への個別の依頼

1-2) 活動団体の実態調査→ニーズ(課題)・シーズ(優良事例)発掘

- ・2023年度後半に、アンケート調査を実施予定

1-3) 清掃活動の見える化支援(全国Map)→効果的な清掃活動の提案

- ・2023年5月より、ピリカシステム稼働
- ・2023年秋に、ごみマップアプリ進化試行版リリース
- ・2023年度後半に、統合的プラットフォーム開設予定
- ・分析などの(研究)体制検討中

1-4) 一斉清掃やシンポジウムの実施→ムーブメントへ

- ・2023年7月27日 セミナー実施
- ・2023年9月23日 セミナー実施
- ・万博500日前(2023年11月30日)企画として、11月26日を中心に一斉清掃&調査「ごみゼロ共創トライアル」(仮)を実施予定(前後、数週間程度を、強化期間に)
- ※淀川水系をモデルに

2. 上流対策:上記の結果を分析し、上流対策に繋がるアクションも検討する

様々な動きがあるので、つなげ方を検討中

2023年秋に「ごみマップアプリ進化試行版」をリリースし、
万博500日前（2023年11月30日）企画として、
11月26日を中心に一斉清掃&調査
「ごみゼロ共創トライアル」（仮）を実施予定
（前後、数週間程度を、強化期間に）



11月末、一緒に取り組んで頂けませんか？

今、考えている情報プラットホームのイメージをご紹介します。